

## コロナ禍で

内藤 真理子

コロナ禍で、東京では感染者が日々千人以上の記録を更新している。

私達、後期高齢者と高齢者の夫婦は感染するのが怖いので、外食など絶対にしない。散歩や買い物で外に出たら帰るまでマスクは外さない。

そればかりではない。家に居る時も、食事をする時はテレビに向かって横並び。会話はなし。食事が終わると密を避け、一階と二階でそれぞれに、テレビ、パソコンを楽しむ毎日だった。

そんなある日、夫のパソコンが壊れてしまった。困った！

タイミングよくポストに入った一枚のチラシ。

『中野区杉並区周辺にお住まいの方へ。ウィンドウズ10機種のノートパソコンをお譲りします』と、白抜きで大きく書いてあり、その下に、主に官公庁、銀行、保険会社等の企業で3年から5年程度使われたものを、安全に使える状態にして安価で譲るとある。

「おい、運転頼むよ」、夫の一言で買いに行くことになった。

会場は中野セントラルパーク。日時が指定されている。二人とも行ったことがない。

「会場は公園かしら」「さあ、どうだろう」

着いてみたらセントラルパークは立派なビルで、すでに沢山の人が並んでいる。

順番が来て会場の中に入ると折りたたみ椅子が50脚位あり、衝立を挟んで隣には、壁に沿って机が並んでいて10台位のノートパソコンが置かれている。

「左から右に向かって、2万6千円から4、5万円位まで安い順に並んでいます。高くなるほど、速くなり、軽くなります」等の話を聞き、そろそろパソコンの並ぶ方に移って行った。

周りは働き盛りの若い人ばかりで、私達のような老人は数えるほどしかない。波のように右の方に流れる人々をしり目に、私達は何となく一番安いのを避けて手ごろな物を買ひ、別室で会計を済ませ外に出た。

すると外には驚くほどの長蛇の列。あのチラシで！

未来の子供たちに大切な地球を引き継ぐために資源を有効活用する取り組みだそうだが、コロナ禍で退屈している老人にとっても救いの取り組みだった。